くらま



9月号 通巻1011号

心華抄

そよ風

立秋・処暑・白露と移ろいゆく季節
残暑の灼熱から退き　ひととき心を鎮める
緑のそよ風が奥山から吹きおろす
天然の涼風　天からの贈りもの　極楽の風
安らぐ心に「阿弥陀経」の一節を思う
「彼佛國土　微風吹動　諸寶行樹　及寶羅網
出微妙音　譬如百千　種樂同時　倶作聞是」

几帳をわずかに押し開くかすかな風の流れ
森の生きもの達の息づかいを包み
生きる力を乗せて訪れるそよ風
身にも心にも活きる力を届けてくれる風

ほの暗さの鎮もりに包まれて
心耳を澄ませるひととき
訪れ来る微風と語らい
極楽浄土に游ぶひととき
豊かで楽しい世界がある

（花　雨）

表紙　揮毫・信樂 香仁　デザイン・澤村 洋二

極楽と地獄

信樂香仁

長い梅雨が明けた八月、連日の炎暑である。コロナ感染防止のために使えないようにしてある転法輪堂前の水鉢に、水を張れば涼し気だという声が上がり、水を入れてちょうど開いた蓮花を挿したところ、たちまちに手水舎が浄土になったという。凛として清らかな花と蓮の葉の上をころがる雫……芥川龍之介の「くもの糸」、極楽の蓮池が私の目の前に広がった。いつも蓮の花とはゆかないが、水とそこに浮く青葉が涼を呼んでいる。

毎月一回、保育園の子ども達が修養道場の観音さまにお参りをする。幼な児が可愛い掌を合わせ声を揃えて祈る姿は、そのまま浄土を思わせる。お参りのあとのお楽しみは「紙芝居」である。仏教童話や昔ばなし、孫悟空も宮沢賢治も、いろんなお話をする。

盂蘭盆から地蔵盆、そして秋の彼岸と、何かと亡くなった人を身近に思うことの多いこの季節には「くもの糸」や「地獄めぐり」など、極楽や地獄のお話をすることが多い。

極楽はさておき、血の池やら針の山やら、恐ろしい顔の鬼の姿など、怖がるかなあと気にしながら抜いてゆく画面を、案外、平気な顔で見つめている。ご尊天から授かった心華（しんげ）をそのまま心に抱いている幼な児には、地獄の恐ろしさは無縁なのかも知れない。

長い歳月にいろいろな経験を積む中で、また日常の暮らしの中で、自分の内にみほとけや菩薩のような崇高な心も、反対に地獄や餓鬼、修羅の心も見てしまっている大人の方が、地獄絵に恐れおののくのだろうか。

それでも闇は光にあらがえない。一灯のろうそくが闇をうち消し、ろうそくが増えれば光に包まれ、すべてのいのちが輝く。極楽も地獄も心のありよう、わが心に授かった心華を咲かせ、一灯のろうそくとなって、みな共にいのち輝く世界に身を置きたい。

足の怪我でしばらく園児との交流をお休みしているが、再び幼な児の無垢な心に触れたいとも願っている。

（談）

『鞍馬山随想記』⑱　蛇・鬼・天狗（50）

澤　村　洋　二

『続　生きる力』信樂香雲著から
「日・月・地」
〈「オレが・・・」の我〉前半、要約と解説

「毘沙門天王は太陽の精霊で光と熱と福徳を象徴し、千手観世音菩薩は月の精霊で水のように万物を潤す慈愛を象徴し、護法魔王尊は地球の霊王で破邪顕正の力を象徴する。この三身のお働きを一つにしたのが、宇宙生命であり宇宙の大霊である三身一体の『尊天』なのである。

宇宙の万物は一に収まり、宇宙のエネルギーは一つである。形を変えて外観は三体だが、その根元は一つである。二宮尊徳翁は、『万物は一元なり』と語り、中国の儒学者程子（ていし）は『万物は一体なり』と述べ、大乗起信論には『一切諸法は究竟平等にして変異あることなし』と示している。

鞍馬山の千手観世音菩薩、毘沙門天王、護法魔王尊の三身一体が『尊天』と説かれる理はここにある。私たちは、宇宙の大霊であり、大光明であり、大活動体にましますご尊天に生かされ与えられているのだ。」

「三身一体の尊天」を説明しているが、この原理を深く理解するのは難しいかもしれない。俗っぽくいうと「護法魔王尊派」や「千手観世音菩薩派」や「毘沙門天王派」に分かれがちのように思う。

根元の理は、「三身は一体」であり、「宇宙の大霊」であり、「大光明」であり、「大活動体」なのだが、その抽象的絶対的な根元が、具体的な形象として、「護法魔王尊」「千手観世音菩薩」「毘沙門天王」に顕現しているのである。

もっと詳しく言えば、根元は一つであるから、「護法魔王尊〈破邪顕正の力〉」の背後には、「千手観世音菩薩〈慈愛〉」「毘沙門天王〈光・熱・福徳〉」が働いていると捉えるのが正しいと思われる。

又、「宇宙の万物は一に収まり、宇宙のエネルギーは一つ」だと信樂香雲初代管長は説き、同時に「形を変えて外

観は三体」だと述べているので、「護法魔王尊」「千手観世音菩薩」「毘沙門天王」の三身がそれぞれ別物だとするのは間違いだと思われる。

そして、「宇宙の根元が一」であることの説明として初代管長は「二宮尊徳翁は『万物は一元なり』と言い、程子は『万物は一体なり』と言い、大乗起信論には『一切諸法は究竟平等にして変異あることなし』と示している」と述べている。

二宮尊徳といえば、かつて小学校には必ずといっていいほど、薪を背負いながら本を読む少年期の二宮尊徳の銅像が設置され、貧苦の中で寸暇をおしんで勉学に勤しむ姿が少年少女の手本とされていた。

二宮尊徳は江戸時代後期の農政家・思想家で、貧しい農民の出身でありながら大飢饉に際し「救世済民」の旗を掲げ、農村復興策を実践し、その功績を認められ幕府にも重用された。二宮尊徳が説き広めた「報徳思想」は、経済と道徳の融和を目指したもので、私利私欲に走るのではなく社会に貢献すれば、いずれ自らに還元するとした経済思想で初代管長も重要視したと思われる。

程子とは12世紀、中国北宋時代の儒学者で朱子学の源流とされる。程子以前の儒教は、陰陽二気の働きにより現象世界が構成され、それがそのまま、人のとるべき倫理道徳としての「道」の原理とされていた。

宇宙の原理としての「陰陽」を理解するのには、真っ暗な新月から輝く満月への変化を思い浮かべるといいだろう。月の満ち欠けは、黒白の二段階ではなく、幾多の段階を含む灰色のグラデーションだ。

一方、合理主義的論理の基礎をなす「否定・肯定」「オンとオフ」は「陰陽」と相似した二元論だが、どっちつかずのグレーの曖昧さがなく科学的合理主義を育くむ原理となった。

「陰陽の原理」が人倫に適用されると、「女は陰」であり、「男は陽」であるというように「女は影になって男を支える存在」だという悪しき「男尊女卑」の封建的風潮を生む原因の一つともなった。

程子は、従来通り、「気」が「陰陽」の「二気」に分かれ、宇宙の存在や運動の原因であるとしたが、その中に一元的原理としての「理」が存在するとしたのである。その

「宇宙的原理としての理」を極めることにより、人間は本来の善に目覚めると考えたのである。

この程子の思想は人として宇宙生命を生きることが善なる道であるとする初代管長の思想の淵源をなすものであると同時に、人間を「男女」としてではなく、差別や区別を越えた人間として捉える考え方につながるものである。

初代管長は、歌人與謝野晶子・寛（鉄幹）夫妻の歌の弟子であった。この程子への傾倒は、女権主義者であった晶子を支えた大碩学の夫である寛の影響があったのかも知れない。

この文章で残る難しい所は「大乗起信論」だ。「大乗起信論」は6世紀頃、インドから伝来し、中国で漢訳された大乗仏教の論書で著者は馬鳴（アシュヴァゴーシャ）とされているが、中国で創作されたという説もある。所謂、小乗仏教（上座部仏教）は、紀元前5世紀頃、活躍した釈迦の教えを踏襲し、精緻にした専門僧による修行や救済を中心に据えた教えだ。紀元前後に「空（この世の全てに実体が無く、現象に過ぎないので執着することを否定）」を説いた般若経典が編纂され、人々の救済のために自己の最終的悟りを放擲した菩薩の教えが起こり、大乗仏教と称した。その大乗仏教の最終的形態の一つが「大乗起信論」で説かれた、誰でもが究極的悟りを得て仏になる素質を持つ事を説く「如来蔵(にょらいぞう)思想」である。

初代管長が述べた「大乗起信論には、一切諸法は究意平等にして変異あることなし」の意味は、救いがたく穢れに満ちた人間でも誰もが平等に仏になる素質を持つ、という希望を与えているものだ。

インドで生まれた仏教の日本独自の展開だといわれる「天台本覚論」は、人間のみならず、インドの伝統的な仏教的思惟では心がないという非情な存在とされた草木や生命がないとされた土でさえ、仏になり、宇宙の真理を体現する悟りを開く可能性を持っているだけではなく、本来的に悟っているという「山川草木悉皆成仏（さんせんそうもくしっかいじょうぶつ）」という概念に到達する。つまり、究極的には小石を含めての万物の根元に悟りという一なる真理が平等に存在し、宇宙の根元は悟りということで一つであるが、現実界では、悟りという抽象的な宇宙的真理が具体的事物という他種多様な現れ方をし、森羅万象を形成

していることを教えているのである。
『華厳経』はインドで伝えられてきた様々な経典が4世紀頃、中央アジアでまとめられたものだとされる大乗仏教経典の一つで、八世紀頃、中国を経て日本に伝来した。奈良、東大寺の所与の経典である『華厳経』には、初代管長と相似した「一即多、多即一」の教説がある。一なる真理が森羅万象を形成し、森羅万象を形成する多なる宇宙の根源に一なる真理が存在するということを指し示したものであり、全てが相互に関係し合い成立しているという思想だ。
『華厳経』には鞍馬寺と同じ「羅網」の思想がある。この地球上の現象や事物を宇宙の果てまでつなげる情報ネットとしての「羅網」があり、相互に関係しあい、影響しあっており、網目の一つ一つに宝珠があって、相互に映し合い、つまり、関係しあっているとされている。我々、人間も含めて全ての事物は、孤立して存在しているのではなく、宇宙的に繋がり、影響し合いながら宇宙生命という巨大な織物を紡いでいるとされているのだ。
初代管長は続いて述べている。「世の中は波であり、夜の次には昼が来る。幸せがあると思えば不幸もある。盛んなものは衰える。貧しい者が一夜にして富者となる。決して真っ直ぐにはゆかない。しかし、どんな時にあっても、ご尊天の大慈悲は、私たちを尊く導いて下さるのであります。この尊いお導きを、素直に頂く者こそ、真の幸福への旅路を歩むのであります。」
初代管長がこの文章を書いたのは昭和25年3月であり、終戦の昭和20年（1945）8月15日から5年後で国民は瓦礫の都市の中を飢餓状態で彷徨っていた頃である。過酷な戦争をたとえ生き延びても、敗戦後のどさくさで、財産を一瞬に失った人も、闇市で一夜にして金持ちになった人も現実にいただろう。日本が本格的な経済復興の軌道にのったのは、昭和25年6月25日に始まった、朝鮮民主主義人民共和国と大韓民国との間で始まった朝鮮戦争特需だ。
一時の幸不幸に一喜一憂することなく、根元的な幸福は何かと真摯に訴える姿勢には心打たれるものがある。
現在、コロナ禍で世界中が先行き不安に揺れているが、心静かに不動の信仰に導かれて、真の光に照らされた希望の旅路を歩むことを願う。

（マルチアーティスト）

鞍馬山山容復興リポート（2）

事務局　豊嶋　亜紀

猛暑の中での森林復旧再生の動き

連日猛暑が続く夏でした。京都でも人の平常の体温を越えて、最高気温が38・3度（執筆時点）を記録しています。その真夏のさなかにも、ありがたいことにお山の森林再生の動きは進んでいます。今回は、九十九折参道横の風倒木撤去の工事についてご報告させて頂きます。

懸案であり課題の多かった
九十九折参道横の風倒木の状況

2年前、台風21号が猛烈な勢いで鞍馬山を通過しました。特に被害の大きかったのは東の谷沿いです。今回の復旧工事は東の谷からすぐそばの九十九折参道の福寿星神下付近で行われました。急な斜面で、樹齢80～１００年ほどの木の間、間伐されたところにさらに若い木々が植樹された複層林と呼ばれる場所です。歴史的にも知られた場所であり、信者さんやご参詣の方にとっても大切な道です。早くから検討が重ねられるものの難易度の高い懸案の場所でした。皆さんの目につきやすい場所であり、安全にお詣り頂くためにも一刻も早くと心は急くのですが、越えなければならない課題が山積みでした。

主な課題その1…
困難な風倒木の伐採とお詣りの方の安全

まずは地形の問題です。そもそも斜面が急で足場が悪く伐採が難しい場所です。その上、風倒木は風によって揺さぶられて木の繊維が無作為に切れており、伐採する際に思わぬ方向に木が跳ね返る恐れがあり一層危険を伴います。その木が急斜面で滑り落ちてくることも計算しておく必要もあります。また、伐採しても木を搬出するための作業道がありません。

困難な作業とお詣りされる方の安全、この両立は容易なことではありませんでした。けれど、コロナや災害の多発する今だからこそ、救いを求めて来られた方の足を止めることなく安全、安楽にお山を上がって頂きたい。それは、森林の整備と共にお寺の切なる願いでした。

主な課題その2…

「経済林」ではない鞍馬山…独自のあり方を生かす

本来は災害も自然の営みの一部であり、森林は自ら再生していく力があります。ですが近年、災害が頻発し大規模化しています。台風による鞍馬山の風倒木は広範囲に渡り実に夥しい数です。倒木の周辺は荒廃して、第二次第三次の災害を招く可能性が高まるため、人間が手助けして再生を促さなければならない場合もあります。整備には多額の費用を要するため、行政の補助も不可欠となります。

日本には森林に対して施策や補助がいくつもあります。ですが、それは経済的な利益を生む、従来の林業や経済林に対しての施策が中心です。近年、林業の衰退と共に森林が人にもたらす有形無形の価値を見出す風潮が高まっています。けれど、施策に反映されるまでにはまだ時間を要すると思います。鞍馬山の森は人々に多くの恩恵をもたらしてきたものの、経済林ではないことが課題の一つでした。

地域の特色を生かした樹種の選定や森林を防災や景観の目線からも捉えるなど、京都市は全国的に見ても森林施策の方針が先進的であり柔軟であるといわれています。そんな京都市であっても、やはり主軸は北山杉などの林業の振興であり、従来通りの経済林に対する施策が中心です。その既存のルールの中で、鞍馬山の特徴である生物多様性を生かし守りつつ、該当する施策の範囲で補助金を申請する必要があります。

そこで、申請に必要ないいわば森林の住民票や戸籍にあたる森林台帳の見直しから始まり、現場の調査を経てどのような形で九十九折参道横の整備を行っていくか、ようやく方向性が見えてきました。

主な課題その3…

工事を施工する業者さんとの出逢い

工事の概要を固めつつ、難航したのが業者さん探しでした。お知り合いの業者さんに見積もりを出していただきました。風倒木をどのように撤去するのか、工期はどのくらいか、倒した木をどのように山から下ろして、処分はどうするのか。また、参詣の方がなるべく通れるように工事中の通行止めは極力避けたい。そして、それにかかる予算は。また、お寺の森林に対する考え方や整備に対する向き合い方にも賛同して頂けることも大切でした。

林業の後継者不足に加えて、ここ数年、京都府下では台風や大雨や土砂崩れなどが頻発して、現場の数に対して業

者さんは不足しています。また、あいにくのコロナ禍です。いろいろ不透明な状況が続きました。それでも、現場に必要な技術と経験があり予算的にも折り合える業者さんにも恵まれて、まずは第一期として風倒木の伐採と撤去がようやく実現したのでした。

長梅雨、大雨に見舞われた風倒木撤去工事

今年は本当に長い梅雨でした。台風の風倒木の現場で土砂崩れが起こり、道路が通行止めになりました。梅雨の長雨で工事の開始が遅れただけでなく、遠方から来られる業者さんが現場に入るのもままならない状態だったのです。

梅雨明けの後は、酷暑が続いています。それでも作業員さんは、斜面を軽やかに駆け上がり次々と危険なはずの風倒木を伐採していかれます。聞けば、平常なら1時間に13本の木々を伐採される方がおられたりと、林業のプロのお仕事ぶりもすごいなあと感じています。それでも、ワイヤーを使って伐採した木を牽引して撤去する時には、現場に緊張が走ります。一つ間違えば生死を左右するほど危険な作業だそうです。大事なく工事が進んだことを感謝せずにはいられません。

お山の声を聴くことの大切さと安寧平和への祈りを込めて

そうはいっても、伐採した木の根が連日の大雨によって滑り落ちたりしました。残すはずだった木の根の中でも、予定より多く撤去することが決まったものもあります。これほどの大雨がなければその判断はできず、現場の工事をしている間にわかって本当に良かったと思います。「お山の声を聴く」という言葉の重みをかみしめています。

また、この工事を通して林業に携わる皆さんを取り巻く厳しい環境を垣間見ることができました。今回のワイヤーによる倒木の撤去作業も、技術者が数えるほどしかいないそうです。お山の自然を護り受け継いでいくためにも今後は、森林に関わる皆さんや取り巻く環境にも目を向けていかなければいけないと思いました。

このコロナ禍や自然災害も多発する世情の中で、お山の森林の整備のご奉仕を通して、ささやかでも一隅を照らすことになればと願ってやみません。お山に様々なご縁のある皆様をはじめ、全ての方のお幸せを祈りつつ、心を込めてご奉仕をさせて頂きたいと思います。

（山容復興委員会）

レゴによる社会貢献

関西LT会代表　安田憲市朗

ブロックといえば子どものおもちゃであり、小学生くらいで卒業となるのが普通だと思います。ところが最近はAFOLといって、大人のレゴファンが多く存在します。元々安くないレゴですが、大人のレゴファン向けの商品も多くなってきており、数万円というものも少なくありません。いったい誰が買うんだよと思いますが、僕も含め、僕のまわりは結構買ってます。ただ僕自身は置き場所にも困るような状態なので、さすがに購入は控えるようになりました。そこはそれ、大人ですから。

僕自身について簡単に自己紹介しますと、僕は関西LT会の代表で安田憲市朗と申します。普段は着物屋ですが、娘が生まれたことをきっかけに再度、レゴをはじめて、もう13年ほど経ちます。

関西LT会のLTとはレゴトレインの略で、ようはレゴで作るトレインの会です。レゴって動くの？ってよく言われるんですが、レゴトレインの歴史は古く昨年50周年を迎えました。といっても我々は、販売されているキットそのままではなく、自分たちでパーツを集めてオリジナルトレイン（ここで言うオリジナルとは「売っていない」という意味です）を作って走らせるのを目的としています。国鉄、JR、各種私鉄、そしてドイツ型、イタリア型といった海外の電車といったものを作っています。

関西LT会の活動をはじめたのは2014年、元々は立命館大学の学生、またOBを中心とするメンバーで、文字通り好き勝手にレゴトレインを走らせるというのをやっていましたが、当時叡山電車の社長さんで玄武の会（出版部注・安田氏は「玄武の会」の事務局を担当しておられます）の会計監査をしていただいていた松下靖さんから八瀬祭りというのをやるので出展しませんかとお声かけいただき、一般的なイベントに出展するようになりました。

そこから京都市交通局のイベントや嵐電、京阪ホテル、そのほか鉄道会社のイベント、さらにはJR北海道から札幌駅を作ってほしいと依頼があって、札幌のジオラマを作ったりということをやってきました。またレゴ社からの依

頼で、ヨドバシカメラなどに展示する展示模型を作ったりということもやっています。

なんだ好きでやってるだけ、まさに趣味じゃねーかよというのは確かにそうなんですが、そうした依頼を受けたイベントだけでなく、関西LT会主催で年に一度（今年は都合二度やったんですが）梅小路のイベント室を借り切ってレゴ作品の展示会（これはトレインに限らず）などもやっています。こちらは教育委員会の後援、また京都市交通局の協力という形でやらせてもらっています。

さて、我々の活動はエコでもなんでもありません。しかし社会貢献というのは可能だと思っています。運営していくためにはお金も必要ですから、物販や依頼をいただいた際には些少なりともギャラをいただいています。

こういうことを言うとただの営業活動なんじゃないかと思われるかもしれませんが、レゴはおもちゃであると同時に、アーティスティックな表現ツールでもあります。そして前述のようにレゴは非常に高価であり、作品を作るということに関しては絵の具以上にお金がかかります。

だんだん経営コンサルタントのような展開になってきましたが、ここで重要なのは、絵画であればコンテストがあり、画廊を借り切るなど展示の機会もありますが、レゴに関してはお金はかかるけど作品の発表の場すらないのが現状です。

今流行のSNSを通して作品を発表する場はあっても、それはあくまで画面の向こうであり、写真の世界です。実際目にする機会はほとんどないと思います。そこで登場したのが名古屋のレゴランドですが、あれはまんま遊園地であり、展示する場所があるわけではありません。

当会の目的は当初、レゴトレインを走らせるということでした。しかし鉄道関係のイベントに多数参加していくうちに、これはもしかするとレゴ自体を広めるいい機会なのではないかと考えるようになりました。

駅でのイベントはほうっておいても人が集まります。そこに作品を置くだけで人目に触れる機会が増えます。これほど理にかなった展示場所は他にありません。最終的にはレゴビルダーと呼ばれる、クリエイターでありアーティストの作品を展示する機会を、みんなに見てもらう機会を増やしたいのです。

実際各種イベントでいただいた謝礼や売上金は年に一度の梅小路展示会の会場費と宣伝広告費に使っています。そ

うした趣旨に賛同いただいた京都市教育委員会、またPTA、そして京都市交通局に後援や協力をしてもらっているのは、先ほどもふれましたが、ここからさらに社会的貢献ができればと考えているからです。

おもちゃで社会的貢献というのは一見おかしな話に思えるかもしれませんが、レゴはアーティスティックな表現ツールと述べた通り、物理的なものはたいてい、人によっては想像世界のものまでをも作り出すことができます。

そしてそれは現実のサイズではなく〝おもちゃのサイズ〟であることに注目してください。今日持ってきたジオラマは簡単なものですが、京都駅と京都タワー、さらにシティライナーという往年の名車（ご存じかどうかわかりませんが）を再現しています。これを持ち歩けば、どこでも観光ができます。しかも今回お持ちした京都駅は今は亡き3代目京都駅で昭和の時代を生きた人にとっては懐かしいものであり、今の子たちにとっては見たこともない過去の風景です。今は見られない風景を今見ているというのは、じつはすごいことだとご理解いただけると思います。

（つづく）

〔令和元年10月18日　めぐみ精舎講演会〕

おたより

6月16日に鞍馬駅から貴船までの山越えを楽しみました。その途中、霊宝殿で一服した気のゆるみで携帯電話を庭先のベンチに置き忘れました。17日に架電申しあげましたところ、保管いただいていることがわかり大変安堵いたしました。郵送のおねがいも快く受けていただき、18日の夕方には手元に届いた次第です。送料もお気遣いいただいて感謝しております。

鞍馬山様には45年前から私共一家と両親と伺ったのを始まりとして、折りに触れて配役をかえながらお参りをしておりますが、今回は70歳をすぎた私達夫婦だけになり、決心して貴船まで歩くことにいたしました。流石にきつい山道でしたが、様々な思い出を語り合いながら辿りました。

一抹の寂しさも覚えましたが、「電話のエピソード」がこれを補う思い出を作ってくれました。

ありがとうございました。

ひとことごあいさつ申し上げます

昨年お山にご縁を得た新職員をご紹介します

これからも感謝の気持ちで

大矢　雅祥

新緑がまぶしく、若葉が力強くなり日の光も強まった六月、早いもので、お寺とご縁をいただき、職員としてまもなく一年が経過しようとしています。人生再チャレンジ、前職はものづくり会社員一筋です。

私の生まれ育ったのは奈良の山間で、山岳霊場修験道大峰奥駈道の北端です。山岳信仰聖地・金峯山寺蔵王堂が在り、桜も有名です。自然が身近で小学生の頃、山桜のさくらんぼを拾い苗を育てる事、そんな美しい自然と歴史豊かな山あいで過ごし、育ちました。

鞍馬寺での初めての部署はケーブルで、現在は本殿東詰担当です。毎日、鞍馬山の澄んだ山の気をいただき、九十九折参道を登り四季の移り変わりも美しく、心を和ませていただき、一歩一歩ゆっくり登り本殿前庭の広場に到着です。

本殿東詰に配属になって八ヶ月を迎え朝は、気持ちを整え「いつもありがとうございます」と感謝して「本日も無事に過ごせます様に」と、御尊天様に挨拶します。一日の始まりです。「清め」の言葉は掃除であり、清浄から新生の第一歩が始まり我が心の掃除、心の清めも始まる、光明も慈愛、活力も頂けると念じて、気持ち良くお迎え出来ますように、まずは本殿外陣、内殿掃除を始めます。コロナの影響下でふき掃除も入念に行います。

又本殿内でのご案内、宝殿へのご案内、お授けもの、山内のご案内、毎日の転法輪堂への御膳とお詣り。転法輪堂は阿弥陀様のお顔を拝して御先祖様の御供養道場であり、鞍馬寺ゆかりの先徳を偲ぶ場で、静かに座り思い出し、御先祖様の御徳に感謝、人の心を充たして頂ける事が出来る大切な道場です。

お水の交換、後始末、戸締り等、正しくご案内出来ているのか自問自答しながら、先輩たちの案内を聞き、参考にさせていただき、日々の仕事に報いる事が出来るようにと思っています。

五月十二日、経塚巡拝に参加させていただきました。行程約十二キロです、午前九時に山門前に集合して出発です。当日は、天候に恵まれて安定した晴れでした。今回は、コロナ感染の影響で自粛、少人数での実施でした。最初は、由岐神社さん上側の由岐森経塚から祈り、道場横稲荷森経塚から鞍馬街道沿いをお祈りして、竜王岳方面へ上り尾根沿いを4カ所お祈り、そして昼食です。この頃運動不足で、

相当汗をかきました。山の涼しい風と日かげに助けられ、全行程に亘り新緑と光まぶしく小鳥たちの鳴き声に癒されました。そして次は鞍馬街道まで降りてきて線路を横切り脊おろし経塚へ、空也平経塚、下山内、魔王殿、大杉経塚、最後の上りは、上山内経塚へ、そして本殿裏、本殿下、本殿へ全員が予定通り十六時三十分までに、ほぼ一日を要した巡拝を終え戻る事が出来ました。

みなさんと共に行動出来、またお声を掛けて頂き、安全な行程の見極めなど先導をしていただきありがとうございました。

経塚めぐりに参加させていただいて、何も考えずに、ひたすら歩いてお祈りをする、きつい道のりでは有りましたが、先人たちが埋納した場所に驚き、また多くの人々がこの道を祈り巡拝されたであろう行程に同行させて頂き、何かしら安堵感があり、行事の一端をつとめさせて頂いた事に感謝申し上げます。経塚巡拝は、如法写経会の前行として経塚に詣でる回峰行です。

重怡上人が保安元年（一一二〇）十日間にわたって写経をしたことが、年中行事として今に伝えられる鞍馬山如法写経会のはじめとなったそうです。如法写経会は、比叡山の慈覚大師・円仁が平安初期にはじめたもので、書き写した経典を後世に伝えるための浄行です。円仁の如法経は、地下に埋納されて日本経塚のはじまりとなったそうです。

末法思想が広まった平安時代後期には、再び仏法のさかえる弥勒菩薩の時代が来たときに生まれあわせたいと願う弥勒信仰、経典を残しておこうという願いや極楽往生を願う浄土信仰、追善供養、さまざまな願いを書写した経典を後世に伝える為に埋納しました。経典を埋めた場所が経塚で平安時代から如法写経が盛んに修されました。鞍馬山と、とりまく山には、十七の経塚が点在しています。

最後に、鞍馬寺の職員としての自覚、気持ちを引き締め、お山で明日への活力をいただき、感謝申し上げ、来山される御参拝者の方々が心穏やかに清められ、人に優しく、安らかに気持ち良くお詣り頂くために、清々しい空気とお山に来て良かったと思っていただけるように親切、丁寧に努めたいと思います。これからもご指導よろしくお願いします。

「One for All, All for One」「一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために」

だけど僕は僕、だけど君は君だ。

（本殿担当）

日々登って、下りる

赤松　洋子

昨年四月から鞍馬のお山に来させてもらっています。通勤を兼ねて、毎日山登りできるので、丁度いいなあと思っています。水の流れる音をききながら、知らない木や花や

虫や鳥など見ながら歩きます。少しずつでも名前など覚えていけたら、もっと楽しいだろうなと思っています。

参拝者として鞍馬寺を訪れた時、650万年前魔王様が金星より降り立たれた、と説明を読んで驚きましたが、ご縁をいただいて働かせていただくようになって、毎日歩いているお山が二億六千万年前、赤道あたりの海の底にあったものと知って、リアルにびっくりしました。そして、同時にとても貴重な事のように思えて、うれしくなりました。

山門の仁王様をはじめ、おまつりされていらっしゃる皆様に朝のご挨拶をしながら、本坊まで上がってきます。そして、支度をしたら本殿で尊天様におはようございますを言います。それからふり返って、龍ヶ嶽のほうを見ます。ああ、気持ちの良い所だなあ、などと思って一日の仕事に取りかかります。お掃除や、ご朱印、納髪の受付、出版物等のお授けなどをさせていただいています。まだまだわからない事だらけで、まわりの方々に教えていただきながら、なんとかやっております。

働き始めて、一年が経つ前にコロナウイルスが現れました。そうして思うのは、近くの人とも、遠くの人とも、立場や年齢、性別など違う人とも、何かを共感、共鳴できる瞬間が持てた時、よろこびや心地良さを感じられるんだなあという事です。お互いに響きあう時間を大切に、尊天様のもと日々一生懸命お仕事させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

（本殿担当）

鞍馬の山に囲まれて

渡邉　久晃

鞍馬に来て一年があっという間に過ぎました。周りの方もいい人ばかりで、安心して仕事をしています。

管理部は体力的にはきついのですが、自然の中で楽しくやらさせていただいています。遙拝所のとびらを開けると山かがしが上から落ちてきたり、リスが寝殿の庭を走ってたり、龍神池の奥の木にはクマの爪の引っかきキズがあったり、クワガタがいたり……本当に楽しい体験をさせていただいています。水源地までの水道敷の道のりは、野生の動物がいつ目の前にあらわれてもおかしくない所で、秋の風は冷たく軽い登山をしているような所です。

初寅大祭は夜中ゴマ木を燃やすのですが、ゴマ壇から煙が地面をおおっていって火の粉が夜空に舞って満天の星空をおおうという美しい体験をしました。山の木々の荒れ方を見ると、大自然の破壊力を目の当たりにします。経塚巡拝は鞍馬寺の向かいの山の経塚をめぐるいのりの山歩きで、山の尾根からは鞍馬寺が一望でき本殿の柱や人の姿も確認できるほどでした。最初は遠足気分で、午後からは体力勝負でけわしい山道でした。

まだまだ覚えなくてはならない事がたくさんあっていたらない僕ですが、周りの温かい方々に囲まれて、体力の続く限りこの広い鞍馬寺、鞍馬の山でがんばりたいと思っています。

（管理部担当）

一年をふり返って

河井　直美

子どもが鞍馬山保育園に通園していたご縁で、鞍馬寺にお世話になって早一年が経ちました。

地元にいながら、お寺にお参りもしないような不信心な私にお寺でのお仕事が出来るだろうか？と、不安ではありましたが、親切な職員さん方のお陰でなんとか一年間やってこれたのだと思います。

お寺でのお仕事は、大変な事もたくさんありますが、一生懸命がんばって楽しくさせてもらっています。

何事にも感謝の気持ちを持つことの大切さも仕事をしていく中で教わったように思います。お陰で家族や子どもに対する接し方も変わってきました。「ありがとう」「ごめんなさい」が自然と言えるようになり、気持ち良く生活が出来るようになりました。

まだまだ勉強不足で未熟な私ではありますが、これからもたくさん学んでどんどん成長していければ、と思います。

（寺務所担当）

寺務日誌（令和2年7月）

1日　朝まいり・転法輪堂おつとめ
　　九十九折参道倒木撤去工事始まる
3日　普明殿おつとめ
7日　例月祭のおつとめ
8日　警報発令にて午前中拝観見合せ
　　土砂崩れでケーブル運休（9日迄）
　　奥の院方面通行止　霊宝殿休館
10日　山容復興委員会
11日　霊宝殿おつとめ
13日　奥の院通行止解除　霊宝殿14日より
　　本殿の閉扉16時15分に短縮
　　定例職員打合会
　　めぐみ精舎打合
14日　転法輪堂おつとめ
17日　保育園夏まつり
18日　修養道場写経（礼拝と法話なし）
　　保育園観音さまお参り
　　お泊り保育（19日迄）
20日　婦人画報取材（21日も）
22日　ケーブル保安無線取替一時運休
　　寝殿大掃除（23日迄）
25日　土砂流出九十九折参道午後通行止
27日　ケーブル一ヶ月点検
28日　光明心殿おつとめ
30日　山内消火器入替
31日　由岐神社火まつり関係者ご来山

茶道　おやすみ
華道　おやすみ
書道　5・6・12・13・19・20日
水墨画　8日

レンズを通して

火祭中止に想う

今から思うと随分昔のことになります。私が今パソコンを使って自分が撮りためた写真を自由に「この方が色的にも柄的にも、人の顔が特定出来なくて良いし、構図や自分の主張したいところもバッチリやし」このように自分の思うように操れるようになったのも、その昔、フィルムカメラを使って撮っていた時代、引き伸ばし機を使って印画紙に写真を焼き付けていた時の感覚をそのままパソコンに持ち込んだことが結果的に功を奏しているのでしょう。でもパソコンの基本やメールの仕方を教えてもらったのは家内の姉婿でした。NECの98パソコン、フロッピーディスク等は今や殆どが死語になっています。画面もブラウン管の大きくて重いものでした。

デジタルカメラの撮影はカメラこそ値は張りますが、フィルム代現像代は必要ありません。プリントする時の印画紙代、プリンターのインク代、その時に要する時間等が必要になってきますが、フィルムカメラで撮っていた時から比べるとデジタルで撮った数量は遥か数倍に増えています。

なぜこんな話をするかと言えば、八ミリカメラで今年は火祭を撮ってみたいと思っていましたが火祭が中止になりました。私に一年間、色々考える時間を与えていただいたこと、本当に有難く思っています。

私が八ミリカメラで撮っていた頃でも八ミリフィルムの製造停止や「国内での現像はできません」と言われていました。現在八ミリフィルムは全く手に入りませんし、私も七十歳を超えています。今までのような身体の動きに自信が持てなくなりました。とにかく機械の進歩は早いです。「機械はどんどん進歩していくのに私はどんどん齢を取っていく」まだまだやりたいことが山ほどあるのに人の生涯の短さを感じます。私がなぜ八ミリフィルムカメラで火祭を撮ろうとしたのか？なぜビデオカメラじゃダメだったのか？ビデオカメラの出来上がりはテレビ画面が必要になってきますし、あまりにも綺麗に撮れるビデオに抵抗があり、私のこだわりですね「感動的な動きのある被写体に対して動くフィルムで撮りたかった」ただそれだけでした。これからは祭の動きに合わせて撮るのではなく、祭全体の雰囲気を大切にした私の眼で観た火祭を記録していきたいと思うと共に被写体を選び、これからも写真撮影を一生の友としていきたいと思っています。（寺務所　田中一郎）



くらま山だより

◆如法写経会は予定通り、八月一日より三日間、一山職員のみで修しました。建具を開け放ちますので密閉空間ではありませんが、経机の間隔をあけ密集、密着を極力避けて、職員全員が代わり合って寝殿のお写経の雰囲気を味わいました。希望者は粥座や正食の食作法も体験し、時間が許す限り片付や次の日の準備も手伝い、文字通り一山心をひとつにして法華経四要品を書写し終えました。五月満月祭に次いで、職員は又とない機会を授かったと思います。随喜の皆様がいらっしゃらないので、夕刻にはすべての行事が終ってしまい時間的にはかなり余裕があるはずなのに、結構忙しい思いをしたのは何故なのでしょうか？

◆今年は梅雨がなかなか明けず、うっとうしい七月でした。気温は高くないのにじめじめとして、あちこちカビだらけで掃除に往生しました。が、梅雨が明けたら水銀柱はうなぎ上り、今度は連日の猛暑でみんなフラフラ、この後、太平洋高気圧の勢力が弱まってしのぎ易くなれば台風の到来、近年の気象の激しさに人間はおろおろするばかり、便利で快適な生活のツケですね。

◆猛暑の中、台風21号の復旧工事が進んでいます。九十九折参道は倒木が随分片付きました。落石等の危険回避のため、時折、通行止めになりご迷惑をおかけしています。お盆明けには大杉苑の危険木が倒されました。また北稜高等学校の生徒さんが根返りした木の根っこの土を除去するご奉仕に、暑い中お出でくださいました。土がついたままでは伐って搬出できないからです。みんなのお山をみんなの力で……すべてのいのちの輝くお山の甦りを切に切に願っています。

編集後記　いろいろ落ち着かぬ昨今、本誌が心の糧となりますように……。

目次（令和2年9月号　1011号）

くらま　第九十三巻　第一〇一一号　九月号

毎月一回十五日発行
一部　百円　一ヶ年千五百円　送料共
令和二年九月十日納本
令和二年九月十五日発行

編集兼発行人　信樂香仁
向日市寺戸町乾垣内五一—三三
印刷所　㈱精巧社
601-1111　京都市左京区鞍馬本町一〇七四番地
発行所　鞍馬弘教総本山鞍馬寺出版部
電話（〇七五）七四一—二〇〇三
振替　京都〇一〇一〇—〇—一一一二八

あなたふと十方界に秋風が浄土の相をすでに營む

（信楽 香雲）

令和二年（二〇二〇年）　長月（ながつき）

九月　一日　転法輪堂おつとめ（午前十時）
　　　三日　普明殿おつとめ（午前十時）
　　　七日　修養道場写経（午前十時四十分）
　　　　　　例月祭（一山職員のみで奉修）
　　十二日　霊宝殿おつとめ（午後一時三十分）
　　十四日　転法輪堂おつとめ（午前十時）
　　十五日　義経祭（一山職員のみで奉修）
　　十八日　修養道場写経（午前十時四十分）
　　十九日　秋の酬徳会（一山職員のみで奉修）
　二十四日　川上地蔵尊開扉
　二十八日　光明心殿おつとめ（一山職員のみで奉修）

「くらま」第九十三巻九月号　一〇一一号
令和二年九月十五日発行（毎月一回十五日発行）